

オリンピック・パラリンピックの魅力

文化や国籍の違いを超えて

子どもに夢や希望を与える平和の祭典

世界中から一流の選手が集うオリンピック・パラリンピック。異なる国や地域の人々が正々堂々と競い合う姿は、観客も含め、互いへの敬意や友情を育み、世界平和の実現にもつながっていきます。また、アスリートたちの活躍を間近で目にする貴重な体験は、子どもたちに夢や希望を抱かせます。

■冬季オリンピック・パラリンピックの概要(2018年平昌大会時点)

	冬季オリンピック	冬季パラリンピック
大会期間	17日間(2月開催)	10日間(3月開催)
競技数	7競技102種目 スキー、スケート、アイスホッケー、ボブスレー、リュージュ、カーリング、バイアスロン	6競技80種目 アルペンスキー、バイアスロン、クロスカントリースキー、スノーボード、パラアイスホッケー、車いすカーリング
参加国・地域	92	49

札幌が歓喜と興奮に包まれた1972年の冬季オリンピック

1972年には札幌でアジア初となる冬季オリンピックを開催。5万人以上の観客を集めた開会式で幕を明け、多くの感動や喜びを生みました。また、この時に雪まつりの様子が海外のテレビ番組で放送されるなど、世界の人々に札幌の魅力を知ってもらったことが、オリンピック後も国内外から多くの観光客が訪れるきっかけになりました。



◀開会式には市内の小学生848人がスケートを滑りながら登場。色鮮やかな風船を飛ばし、式を盛り上げた

写真/公式報告書より

招致に当たっての札幌の強み

充実した競技施設や国際大会の開催実績

1972年札幌冬季オリンピックの際に改修・整備された大倉山ジャンプ競技場などの各施設は、その後も2017年札幌冬季アジア大会といった数々の国際大会の舞台となりました。既にこうした基盤が整っていることや、国際大会を成功させた実績は、オリンピック・パラリンピックを無理なく行える街として招致の強みとなります。



◀市内を一望できる大倉山ジャンプ競技場。夏季も含めて年間10大会以上の会場になっている

ウィンタースポーツを目的とした外国人観光客が増加

日本を訪れる外国人スキー客の数は、2013年からの4年間で3倍近くに増加。オリンピック・パラリンピックの開催は、ウィンタースポーツのリゾート地としての札幌の魅力を広く世界に発信し、さらに観光客を呼び込むことで、経済を活性化させる絶好の機会にもなります。

■訪日外国人スキー客の推移(推計)



オリンピック・パラリンピックは
街の魅力アップや活性化にもつながります



写真提供/
左上・下:(公財)日本スポーツ協会
中央上・下:(株)朝日新聞記者スキー連盟
右上:(公財)日本アイスホッケー連盟
右下:©2018 CONSADOLE

皆さんとともにつくる

冬季オリンピック・パラリンピック

【詳細】招致推進部調整課 ☎211-3042

冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向けて皆さんの声を聞かせてください

■これまでの経過と今後の予定

市では、2026年大会に向けて招致活動を行ってまいりましたが、昨年発生した北海道胆振東部地震からの復旧・復興を最優先とすることなどから、昨年9月に招致目標を2030年大会に変更しました。

オリンピック・パラリンピックは子どもたちに夢や希望を与えるとともに、スポーツに親しみ、誰もがいつまでも元気に暮らせる社会を育むことにもつながります。また、大会の開催は街を元気にし、時代に合わせたまちづくりを進める絶好の機会にもなります。

現在、市では大会の在り方や、無駄なコストをかけない財政計画などを検討し、開催概要計画の見直しを進めています。今後、さまざまな機会を通じて市民の皆さんに検討状況をお伝えし、いただいたご意見を計画の中に生かしていきます。

オリンピック・パラリンピックの招致実現には皆さんの応援が不可欠です。ぜひ、皆さんの声をお聞かせください。



札幌市長 秋元 克広

2014年 11月	市議会が2026年冬季オリンピックの札幌招致に関する決議を可決 市長が2026年冬季オリンピック・パラリンピックの招致を表明
2017年 11月	開催地に立候補するに当たり、国際オリンピック委員会と必要な条件などを協議する「対話ステージ」に参加
2018年 9月	北海道胆振東部地震の影響、札幌駅周辺のまちづくりの状況や北海道新幹線の札幌延伸を踏まえ、2026年大会に向けた招致活動を終了し、2030年大会へ向けて活動を継続
現在	これまでの招致活動を踏まえ開催概要計画*を見直し *競技会場の配置や費用、大会運営の概要や、大会を生かした今後のまちづくりなどをまとめたもの

今後、開催概要計画に
皆さんの声を生かしていきます

オリンピック・パラリンピックを通じて 目指す街の姿

例えば市では現在このように考えています

■ 魅力と活力のあふれる街

北海道新幹線の札幌延伸と合わせ、ニセコエリアと一体となったウインタースポーツリゾートとしての魅力を世界に発信。将来にわたって観光客を呼び込み、北海道全体の経済をけん引する街を目指します。



札幌の人口や経済はどうなるの？

市では今後、働く世代が減っていき、経済規模も小さくなること懸念されます。そのような中でも国内外から人を呼び込み、経済を活性化させることが、街の活力の維持につながります。

■ 将来の札幌市における人口の見通し



(資料) 総務省「国勢調査」、札幌市まちづくり政策局企画課
※2015年の総数には年齢「不詳」を含むため、合計が一致しません

皆さんのご意見を 計画に生かします

市民の皆さんからより多くのご意見をいただき、開催概要計画に生かしていくために、参加無料のワークショップなどを開催します。ぜひ、ご参加ください。

大規模市民ワークショップ

大会招致の意義や開催経費などに関する市の考え方を説明。大会をまちづくりに生かしていくためのアイデア、大会への期待や懸念をグループに分かれて意見交換します。

日時 9/8日、12月13時~17時

会場・定員 プリンズホテル国際館バミール(中央区南3西12)。各500人

申込 ホームページ、電話。8/26(月)までに市コールセンター(ホームページ www.city.sapporo.jp/callcenter/uketsuke、☎222-4894)へ。抽選。ホームページは、右記のコードからも確認できます

※参加者には交通費相当分として1,000円分のQUOカードを差し上げます



意見交換は そのほかの場でも

今後、子どもワークショップ、各区での区民ミーティングも行っていきます。また、ワークショップなどを振り返る場として、10/11(金)18時30分から道新ホールでシンポジウムを開催。詳細は、後日ホームページ(www.city.sapporo.jp/sports/olympic/menu.html)などでお知らせします。

ご意見を募集しています

各ワークショップのほか、皆さんからのご意見を随時受け付けています。はがき、ファクス、Eメールで招致推進部調整課(〒060-0001中央区北1西3ばらと北1条ビル内、ファクス211-3048、Eメールolympa@city.sapporo.jp)へ

大会開催の前後を含めて街を大きく変える力があるオリンピック・パラリンピック。大会を通じて目指す街の姿を、市民の皆さんと話し合い、考えていきます。



写真提供/
左:(特非)日本障害者スキー連盟
右:土曜ホーム

■ 民間投資を促して街を更新

大会期間の前後も含めた観光客や雇用の増加を見据えて、ホテルやビルなどの整備を支援。費用の補助や建築の際の規制の緩和など、さまざまな手法を活用し、民間の投資を促します。



街のリニューアルは今必要なの？

市内には、1972年の札幌オリンピックに合わせて建築された建物が多くあり、50年近くの年月が経った今、一斉に更新時期を迎えています。

■ 全ての人に優しい街

札幌では初開催となるパラリンピックをきっかけに、施設などをバリアフリー化。また、障がい者スポーツの振興などを通じて、個性や能力の違いを認め合える心のバリアフリーも広がっていきます。



優しい街とはどんな街？

「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」という視点で、年齢や性別、国籍、障がいの有無などに関わらず全ての人暮らしやすい街を目指します。

開催経費の 考え方

オリンピック・パラリンピックの開催経費は、将来世代への過度な負担とならないよう、無駄なコストをかけない計画を検討。ここでは、主に2つに分かれる経費の種類や、財政計画の方針などをお伝えします。

大会の運営に関する費用 (組織委員会予算)

考え方

大会運営に関する一時的な費用は
全て民間資金による収入で賄います

オリンピック・パラリンピックの開催にかかる、競技の運営費などの一時的な費用は、国内のスポンサー収入などで全額を賄います。

収入 2,300億円 > 支出 2,300億円 収支の均衡を図ります

※2019年7月現在の試算

収入の例
・国際オリンピック委員会の負担金
・国内のスポンサー収入
・チケットやグッズなどの売り上げ

支出の例
・競技の運営費
・会場のセキュリティ費
・選手の送迎費や宿泊費

開催後も残る施設に関する費用 (施設整備費)

考え方

既存施設を最大限活用し、
大会開催に向けた新たな競技会場は造りません

大会に合わせて改修する施設などは、街の財産として大会の後も広く利用されていきます。2030年大会では既にある施設を最大限活用。老朽化などの理由で、計画的に更新していく既存施設の建て替え以外に、競技会場の建設は行いません。

総額 800億円~1,400億円
(うち札幌市負担額400億円~600億円)

※2019年7月現在の試算。市負担額は札幌市が所有する施設にかかる費用を計上